

虫とりが育む、生き物リテラシー、地域愛



いろいろな虫やいてびっくりしました。わたしはとりたかた虫はひまきりとこうろぎです。とれられなかったのは、かなぶんです。

バッタは+とまきぐりいとあけどい。カマキリがいとれんて。かまきりをつかまえたといいか、あと思た。

大きなバッタがころもに落ちて、思いました。名前で、こんなに多くの昆虫にふれる機会がある事は、珍しいと思います。森の中で、20年かかると説明が聞ける、子供が、大人になつ時に、この森が、森づくりに役立つと思います。

チラシ（上：デザインは（株）ヘッズ）
参加者の声の例（下：2015年尼崎）

「昆虫大捜査線」尼崎の森から出発

尼崎の森中央緑地は、自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざす兵庫県のプロジェク「尼崎 21 世紀の森構想」の中核施設です。プロジェクトのアドバイザーを務める赤澤主任研究員によると、長い年月をかけて工場跡地に森を再生するプロセスの中で、自然環境のモニタリングと子どもたちの学習を兼ねたプログラムが、求められていました。そこで、いっしょに開発したプログラムが、尼崎 21 世紀プロジェクト推進室さん（当時）のネーミングによる「昆虫大捜査線」です。

2014 年の第一回。募集定員 300 人に対し、2,000 人を超える応募がありました。泣く泣く抽選とし、700 人ほどの参加者で実施。1時間足らずの虫とりで、約 80 種 900 個体の昆虫が得られました。みんながつかまえた虫を一望すれば、参加者も主催者も、その種類や数の多さに（生物多様性を



つかまえた虫は、その場で種ごとに分類、展示。ひとはく連携活動グループ「テネラル」の高校生、大学生が、ここでも大活躍します。（丹波並木道中央公園）

目の当たりにして) 驚かされます。青空の下、家族いっしょに虫とりをしたことや、採れなくてくやしかったことも、忘れがたい思い出となることでしょう。小さなエピソードの積み重ねが、きっと地域愛につながっていくのだと思います。

他地域への波及

「昆虫大捜査線」方式は、2015 年、開催地の事情に合わせてカスタマイズしながら、県外も含めて 5 カ所に広がりました。

子どもたちがたくさん来てくれる、参加者が楽しみながら地域の自然を再発見してくれる、地



これまでの開催地

2014 年 「昆虫大捜査線」尼崎の森中央緑地

2015 年 「昆虫大捜査線」尼崎の森中央緑地・丹波並木道中央公園・岩手県立児童館いわて子どもの森（写真中）
「大しんかい昆虫捜査網」神戸アートビレッジセンター～湊川公園（写真右）
「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」花博記念公園鶴見緑地（写真左）

域の施設を舞台に親子での楽しい思い出が創出される、参加者の満足度が高く主催者や施設の好印象につながる。このような特性が、公園等の事業展開の中で、うまく活用いただけるポイントのようです。博物館としても、連携させていただくことで、単独では対応できない大規模な野外プログラムを、実現することができました。子どもたちの虫とり機会を各地でさらに増やしていけるよう、今後も努力したいと思います。



昆虫を介したコミュニケーションの創出プロジェクト

代表者：八木 剛

協力者：ひとはく連携活動グループ テネラル・兵庫県阪神南県民センター・兵庫県園芸公園協会・（株）ヘッズ・兵庫県丹波県民局・丹波並木道中央公園・岩手県立児童館いわて子どもの森・神戸アートビレッジセンター・国際花と緑の博覧会記念協会

財源：外部資金（開催地予算）